

一般演題【HBO装置関連】

COVID19のパンデミック禍における 外来通院患者の高気圧酸素治療再開に向け 多職種で協働した感染予防策の実際

亀山沙矢香¹⁾ 宮城京子¹⁾ 饒平名かおり¹⁾
眞榮城智子¹⁾ 砂川昌秀²⁾ 上江洲安之²⁾
前原博樹³⁾ 梅村武寛^{3),4)}

1)琉球大学病院 看護部
2)琉球大学病院 臨床工学室
3)琉球大学病院 高気圧酸素治療部
4)琉球大学病院 救急部

【背景と目的】

沖縄県は全国でも有数のCOVID19（以下コロナ）の流行地であった。当院の高気圧酸素治療（以下HBO）は、同年11月～2022年3月まで入院患者のみを治療対象とした。外来患者の早期のHBO再開が求められたため、安心して通院治療が出来るよう多職種で協働し、密室で特殊な環境における感染予防策を講じたので報告する。

【方法】

2022年4月～2023年3月までの通院患者46名（突発性難聴37名、骨髄炎4名、減圧症3名、一酸化炭素中毒2名）を対象とした。

医師、看護師、臨床工学技士（以下ME）で、当院の感染対策マニュアルを基に、HBO内での感染予防策を講じた。医師はHBOの適応と治療法の決定、各診療科へ治療前PCR検査の必要性の周知とオーダーの依頼。看護師はPCR検査結果を確認後、検査実施日を白板に記入。体調チェック表の作成や入室時間の調整。患者の健康観察と感染予防策について説明と指導。コロナ感染患者治療後の清掃手順を作成。MEは外来患者の入れ替え時にチャンバー内を強制換気し、アルコール清拭を実施。週1回スタッフ全員で現状の共有と感染予防策の振り返りのミーティングを実施した。

【結果】

2019～2022年度までの外来HBO件数をグラフでまとめた。2019年度は延べ1712件の通院治療を行ったが、2020年のコロナパンデミックにより、同年11月

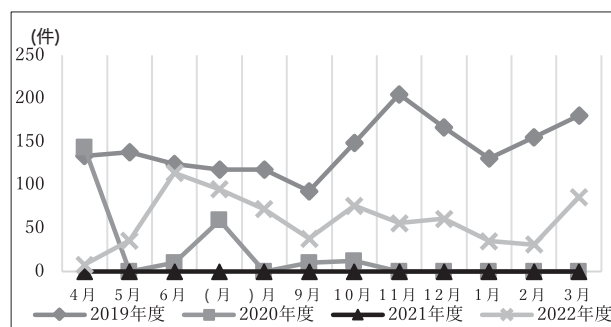


図1 各年度における外来 HBO 件数

から外来患者の受け入れを停止し、2021年度は0件となった。2022年度5月より全患者の受け入れを開始し、708件と増加した（図1）。治療前PCR検査で1名の陽性反応者に対してはHBO内へ入室させず、翌日再度PCR検査で陰性を確認し、治療を開始した。治療途中で家庭内での濃厚接触者が1名いたが、治療前オリエンテーションで感染予防策を互いに確認していたため、患者自从来院せず一週間自宅待機を指示し、PCR陰性確認後、治療再開できた。多職種での協働や患者が感染予防策を遵守した結果、チャンバー内での感染者および濃厚接触者の発生件数は0件だった。

【考察】

今回、密となる治療環境下で感染予防策を講じた。治療前オリエンテーションだけではなく、日々感染予防策を確認し、理解を深めてもらう事で患者がスムーズに感染予防策に参画する事ができたと考える。特殊な環境において、多職種が各々の専門性を発揮した事は、多職種で協働し課題達成に取り組む意識が高まったと考える。時間的、空間的分離を重視し、患者管理を行なった事が、今回の結果に繋がったと考える。

【まとめ】

安全に治療を継続するには患者の協力が不可欠であるため、患者と接する機会が多い看護師は、患者との信頼関係の確立が重要である。多職種協働した事で、各々の強みを活かし感染予防策の構築ができた。今回の取り組みは、HBO環境下におけるコロナ感染予防策の一助となる。